



「南海岸圏発展計画の効率的推進のための 韓日共同協力戦略」

【趙 相弼 (チョ・サンピル)

(全南発展研究院都市研究チーム長)】

このようにすばらしい場で発表できる機会をいただきました、日本の国土交通省、そして韓国の国土海洋部に感謝を申し上げます。

本日の発表内容は、先ほど御紹介がありました、韓国には南海岸の開発のために、いかにして連携をしていくのかということについて全羅南道という地域を中心にお話をしたいと思います。

発表の順序ですが、南海岸圏の開発というのは非常に膨大です。その中で、全羅南道の開発にはどのようなものがあるかについてお話をしたいと思います。また今後、韓日が共同して行わなければいけない部分についてお話をしたいと思います。

1. 全羅南道地域南海岸圏開発事業内容

まず、南海岸の地域の開発地域というのはたくさんあるのですが、今現在 58 の事業が着工中です。そのうち全羅南道は 67 件あるのですが、27 件は今現在計画策定中でして、残りの 40 件は推進中です。

その中には、まずテスト的に行う事業があるのですが、その中の事業でというところで告示されました。主な連携の内容といたしまして、全羅南道は造船、航空宇宙、新素材産業のクラスターを造成するということが可能です。また、海洋バイオ産業が可能であり、港湾を持っているということをお話したいと思います。

観光部門の協力は非常に多くの話が出ましたが、全羅南道と慶尚南道、釜山（プサン）にも多くの観光資源がありますが、全羅南道には島がたくさんあります。

島を中心とした環境に優しい海洋保養団地（海

洋観光・レジャー団地）をつくる、そういった内容が多く含まれています。海洋観光クラスターと出ていますが、今図で御覧いただいておりますように、島が多いところを開発しようと思っています。国際クルーズの基盤づくりですとか、また拠点マリーナづくりを行っております。

このようなものと合わせて、どのようなところを推進し協力できる事業があるのかについてお話ししたいと思います。

2. 韓日共同協力戦略

韓日の海峡において多くの話が出されましたが、韓日海峡観光の協力関係をより強化していきたいと思います。ですから韓日海峡沿岸にある自治体の交流を促進する必要があります。ここには中長期的に海洋観光のビジョンをつくる。そういった努力が必要になると思います。

私も以前論文を発表したことがあるのですが、イベント中心の形式的な多くの事業があります。釜山と福岡の間で多くの協力をすべきだというような論文がたくさんありますが、もっと具体的な実質的な協力事業が展開されればいいと思っています。

ですから、今後協力を進める部分というのは、情報技術、商品開発、人的な交流、また投資開発です。より積極的に投資開発が行われる必要があります。

最近私どもの地域におきましては、日本人観光客が多く訪れています。ですが、日本人のための宿泊施設、またレジャー施設が非常に不足している状況です。ですから、日本の資本をもう少し積極的に誘致をし、このような投資開発に対する協力というものがが必要になると思っています。

もう1つは、今現在、上海と南海岸、福岡の間のクルーズ船を運航させる必要があると思います。3 国が共同で出資をして船会社を設立することを考えることができると思います。今、韓日海峡におきましては、2013 年からクルーズの商品化をするための議論が行われております。

この商品のサービスを開発中なのですが、多分 2014 年からはこれが実際に行われる予定です。そ

れを上海までつないで、3 カ国をつなげる、そういったクルーズ船の戦略も必要だと思います。

今現在全羅南道地域というのは光陽（クァンヤン）から下関までのクルーズ船があります。現在1週間に3回航海をしています。もう少し積極的に結びつけられるのであれば、このようなクルーズ商品が非常に多くの脚光を浴びることができると思っています。

もう1つの方策といたしましては、現在船と航空機の2つのメリットを活かしたウィグ船というものがあります。このウィグ船というのは、水面から2メートルぐらい浮いて走る船舶です。現在韓国ではこのウィグ船を開発中です。今後は150人が乗ることができる、そういったウィグ船を開発中です。このようなウィグ船が日本との協力によって運行されるのであれば、非常に韓日の協力に多くの影響を与えたいと思います。

ですからこのようなウィグ船を運航できるような、そういった法の整備が両国政府において行われる必要があると思います。また許認可に対する問題、法整備、こういったものも韓日が協力して行うべきだと思います。

もう1つ、先ほど報告がありましたが、5月12日から8月12日の3カ月の間、麗水（ヨス）におきまして世界博覧会が開催されます。

この開催期間中、韓日共同のヨット大会を開催するというようなことも重要な内容となっております。今現在、全羅南道は済州（チェジュ）島で10月頃にヨット大会を共同で開催をしています。この共同で開催しているヨット大会を日本と共同で行えば、非常にいい意味での商品になると思っています。

もう1つは、韓国でも日本のNHKがたくさん視聴されておりますが、日本のNHKを見ていると、ラーメン紀行という番組があります。2の方が出てきて、ラーメンを食べながら、またその食器をお土産でもらったりしているのですが、そういった味と器に対する共同の商品を開発するための努力が必要だと思います。

今現在韓日におきまして、共同で研究をして話をしていますが、具体的な商品化にまでは至って

おりません。ですから、そういった商品をつくり出すというような戦略的な努力が必要だと思います。

もう1つは先ほど全羅南道地域は島が多いと申しました。全羅南道は全国の62%の島があります。島の数全部で1968です。莞島（ワンド）、高興（コフン）、こういったところには非常に島がたくさんありますので、このような島の開発事例を日本と共有すればいいと思っています。

今下にある図は、日本の直島の写真です。全羅南道はこのような島1つ1つを独自に芸術的なもの、観光、健康の島、また動物の島、このように開発しようと考えております。日本のそのようなノウハウを私どもも共有できればと思っています。

特に島の観光収容力を考慮した持続可能な開発をどうするのか、また障害についてはどのように克服してきたのか、そういったノウハウについて共有したいと考えております。

全羅南道は2015年までに5大メガイベントを開催します。ここには4つだけが書かれていますが、F1 コリアグランプリ、2012年の麗水国際博覧会、国際農業博覧会、2013年順天湾（スンチョン湾）の庭園博覧会がありますが、それ以外に2014年に莞島（ワンド）の国際海洋博覧会、この5つのメガイベントを準備中なのですが、このイベント開催に対するノウハウを日本と共有したいと思っています。

日本はこのようなイベントを多く開催したという経験をもっておりますので、効率的なイベント運営などについてのノウハウを共有したいと思います。

私どもは全羅南道から来たときに、朝2時に起きてバスに乗って、苦勞して日本にまいりました。全羅南道にも国際空港はあります。あることはあるのですが、路線がまだ開発されておらず日本に飛ぶ飛行機がないのです。

ですから、務安（ムアン）国際空港という全羅南道の空港に、多くの日本の飛行機会社を誘致したいと考えております。

2つ目は全羅南道には非常に多くの日本人が訪

れています。日本の直接的な投資、あるいは、韓日の合弁投資によりまして、もう少し開発してはどうかと思っております。務安（ムアン）には現在、務安（ムアン）企業都市というものが開発されています。

また全南（チョンナム）地域は特に高齢化率が非常に高いです。日本も高いですが、韓国も非常に高いです。ですから、リタイアの人たちを中心とした、リタイア人たちのための都市を開発しようと考えております。全羅南道の 38 の地域を指定いたしまして、リタイア世代の都市開発を行っています。そのような分野に関する直接投資も可能であろうと思っています。

もう 1 つは全羅南道には非常に多くの海があるにもかかわらず、造船業が特化されています。中小企業の造船業に特化されているのですが、このようなものと連携をして海洋レジャー産業ビジネスをより積極的に行おうと思っております。

日本との M & A、技術移転、共同研究によりまして、この航空特化産業の育成をする必要があると思っています。

ホバークラフトというのがあるのですが、こういったものについても研究をしながら日本と共に航空特化産業を育成していきたいと思っております。

最後に務安（ムアン）企業都市内に中国の資本力で、今現在韓中の産業団地をつくっております。中国政府が認めた 10 の都市があるのですが、そのうちの 1 つが全羅南道の務安（ムアン）の中にあります。この韓中の工業団地の中に航空産業に特化したクラスターをつくってはと考えております。

日本はこういった分野で非常に優れた技術を持っております。ですから日本の技術、中国の資本、韓国の労働力で、このような航空機産業の特化事業というのも 3 カ国が協力できる分野ではないかと思っています。

それ以外にもたくさんありますが、時間の関係上割愛します。友好、協力、WINWIN というのは両国交流の基礎になると思います。両国の発展のためには、自治体、政府間そして民間レベルの協

力体系の構築を常にしていく必要があると思っております。

南海岸圏発展計画の効率的推進のための

韓日共同協力戦略

—全羅南道地域の事例を中心に—

2012. 1. 17

チヨ・サンピル

(全羅南道発展研究院都市研究チーム長)

CONTENTS

I 全羅南道地域南海岸圏開発事業内容

1. 全羅南道地域開発事業内容
2. 全羅南道地域戦略別事業内容

II 韓日共同協力戦略

1. 韓日海洋観光協力の活性化
2. 日本の全羅南道観光関連分野投資の誘致
3. 国際協力を通じた海洋レジャー装備産業の育成
4. 航空産業クラスターの構築

III 結論

I. 全羅南道地域南海岸圏開発事業内容

1. 全羅南道地域開発事業内容

○ 3市・道

戦略	事業数	総事業費(兆ウォン)
世界的海洋観光・休養地帯づくり	114	9.9
グローバル経済・物流拠点育成	33	9.3
統合インフラ及び超国境ネットワーク構築	13	3.7
東西融和及び地域発展拠点育成	6	1.4
合計	166	24.3

⇒ 58事業既着工(8.4兆ウォン)、108事業推進(15.9兆)

○ 全羅南道事業

■ 事業数：67件(40件推進中、27件計画策定中)

■ 事業費：10.7兆ウォン(国費4.04)

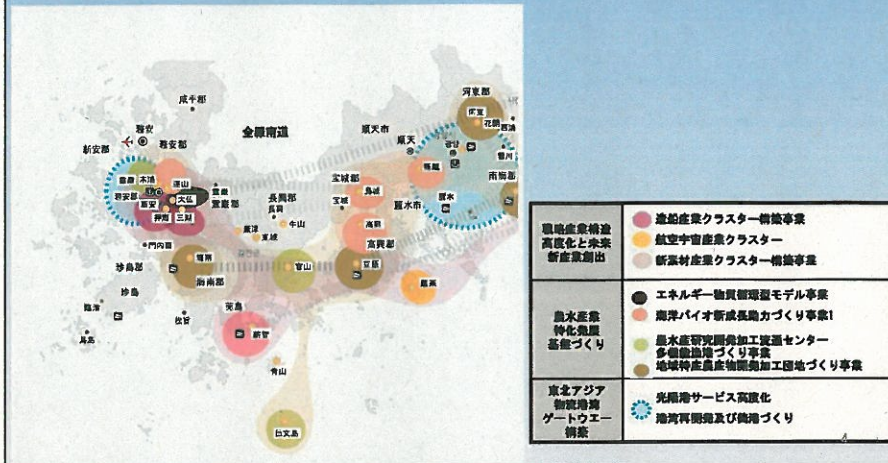
(単位：兆ウォン)

総事業費	既投資('10年まで)	11年	今後
10.9 (国費4.04)	6.7 (2.8)	2.2 (0.07)	9.8 (3.6)

I. 全羅南道地域南海岸圏開発事業内容

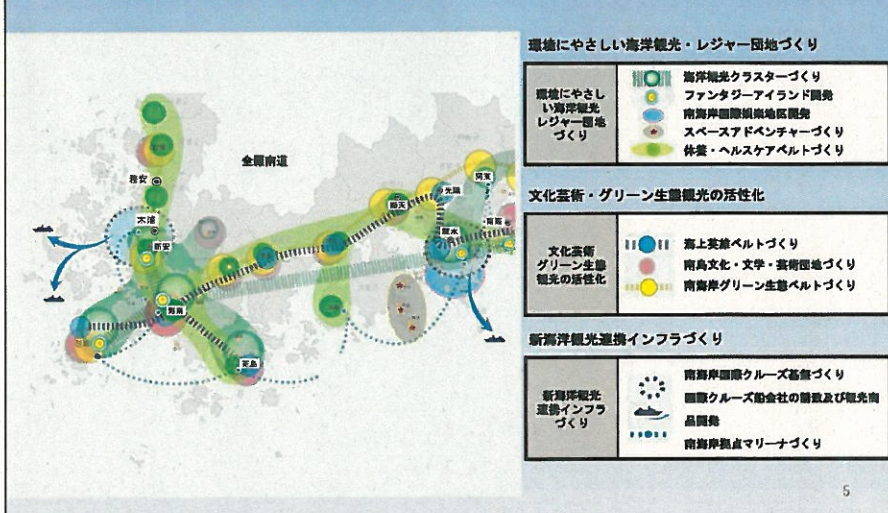
2. 全羅南道地域戦略別開発事業内容

(1) グローバル経済物流拠点の育成



I. 全羅南道地域南海岸圏開発事業内容

(2) 世界的海洋観光・休養地帯づくり



II. 韓日共同協力戦略

1. 韓日海洋観光協力の活性化

□ 海洋観光ビジョン共有のために韓日海峡沿岸8市・道の協力強化

韓国：全羅南道、済州道、慶尚南道、釜山広域市
日本：福岡県、長崎県、佐賀県、山口県

・ 韓日海洋観光地方自治体交流大会の開催

- 海洋文化構築と海洋観光活性化のために、地域特性を活かした交流型活性化施策推進
- 中・長期的国際海洋観光ビジョン計画と細部実行プログラムの整備

主な協力内容

情報 技術	観光データベースの構築 観光ネットワークの連携 観光関連技術交換 観光協力の締結	人的 交流	観光客の交流 観光投資説明会の開催 観光商品説明会の開催
商品 開発	地方特産物交換販売 観光協力機関の設置 観光交流展の開催 観光連携商品の開発	投資 開発	観光資本投資 観光環境・資源の保護 観光資源の開発 観光広報物の制作

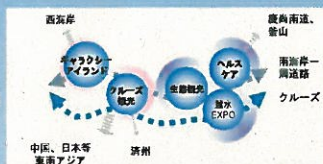
Ⅱ. 韓日共同協力戦略

□ 上海～南海岸(麗水、木浦)～福岡(大阪)間クルーズ観光商品の開発

- 韓・中・日クルーズ産業発展のための官民協力機関の創設
 - 3ヶ国共同出資による船会社設立、共同広報及び販促活動
- ※韓日海峡沿岸8市・道知事会議で2013年からクルーズ商品化推進議論→韓日海峡クルーズ商品サービス推進中

□ 韓日国際クルーズ運航状況

- 釜山～日本(大阪、福岡、広島、松山、金沢等)開運航
 - 2008年4月
- 上海～済州～長崎～鹿児島～上海
 - 2006年運航
- 光陽～日本(下関)
 - 2011年運航、週3航路に増便運航



□ 韓日連携ウィグ船運航

- 新しい交通手段としてウィグ船運航
 - 韓日両国・地域間ウィグ船運航のための法・制度整備
 - ウィグ船運営計画の策定
 - ウィグ船運営のための許認可
 - ウィグ船専用埠頭に適する旅客及び貨物ターミナル共同構築

Ⅱ. 韓日共同協力戦略

□ 韓日共同ヨット大会の開催

- 麗水万国博覧会開催期間(2012.5.12～8.12)中、共同ヨット大会開催
 - ヨット産業の育成及び麗水万国博覧会と連携して全羅南道と日本のブランド上昇
 - 韓日国際ヨット人と友好増進及び海洋レジャースポーツの底辺拡大

□ 麗水万国博覧会の概要

- 主題: 生きている海、息づく沿岸 (The Living Ocean and Coast)
- 参加: 参加国100ヶ国、観覧客800万名
- 面積: 271万㎡
- (展示面積: 25万㎡、その他支援施設)



2012麗水万国博覧会

□ 韓日味紀行商品開発

- 食文化を先導観光資源として開発して食物の商品化及び国際化
- 味と気の発見
- 伝統醗酵食品体験観光

Ⅱ. 韓日共同協力戦略

□ 島観光開発経験の共有

- 全羅南道は全国の62%である1,968島保有
- リアス式海岸: 6,435km(全国の50%)
- 世界5大干潟: 全国の44%

□ 全羅南道島観光資源開発基本計画

- 新安・靈栄地区(ダイヤモンド クラスタ): マリーナ施設開発、国際海洋観光センター開発
- 珍島・海南地区(島島クラスタ): 展望台と海上ロープウェイ、海洋テーマパーク等設置
- 莞島地区(南吉島クラスタ): 文化遺産資源の活性化、海洋スポーツ特化
- 麗水・高興地区(沙島・狼島クラスタ): 海上観光最適の景観でSea Paradise

- 島の観光収容力を考慮した持続可能な開発
- 四季滞留型観光地転換策
- 観光目的地として島だけでなく、障害要因克服策と発展策共同研究、経験共有



日本直島の写真

Ⅱ. 韓日共同協力戦略

□ 国際メガイイベントを活用した協力策の模索

- ・メガイイベント開催による共同マーケティングプランの策定
 - － F1コリアグランプリ大会、2012麗水万国博覧会、国際農業博覧会、2013順天湾庭園博覧会開催
- ・メガイイベントのノウハウ共有



F1コリアグランプリ



2012麗水万国博覧会



2013順天湾庭園博覧会

□ 地方空港国際線(韓日)運航の活性化

- ・務安国際空港で日本の多様な路線発着
 - － 福岡、大阪、長崎、佐賀等定期・不定期路線多様化

□ 務安国際空港の状況

- － 位置：全羅南道務安郡望雲面皮西里
- － 滑走路：2,800x45 (m)
- － 年間処理能力：140,000回
- － 敷地面積：26万㎡
- － 係留場：同時駐機能力9台 (面積90,692㎡)
- － 国際路線：北京、上海、カンボジア、台湾、マカオ、セブ運航中



務安国際空港

10

Ⅱ. 韓日共同協力戦略

2. 日本の全羅南道観光関連分野投資の誘致

□ 急増する日本観光客の需要に対応するためには、日本の直接投資または韓日合作投資が効果的

- ・小規模個別投資・韓日合作投資
 - － 宿泊施設(ホテル、ペンション、コンドミニウム等)、ショッピングセンター、飲食店等
- ・韓日合作投資・戦略的提携
 - － 大型ショッピングセンター、海洋レジャースポーツ施設、高級宿泊施設、中小規模観光地開発
- ・大規模直接投資・M&A
 - － 高級医療休養タウン、国際水準の中大規模観光団地づくり、西南海岸・観光レジャー都市開発、務安企業都市、引退者都市開発等

3. 国際協力の強化による海洋レジャー装備産業の育成

□ 日本と広域連携を通じた海洋レジャー産業の競争力向上

- ・日本と戦略的技術提携、技術移転、共同研究及び技術開発
- ・国際的協力システムの構築

□ 海洋レジャー装備産業育成のための全羅南道の条件

- ・ 全国中小造船所57社中全羅南道24社保有(全国42%)
- ・ 天恵の自然条件：平均気温13.9℃
- ・ 海上条件：平均水温22℃、平均潮流速度3.7knot等

11

Ⅱ. 韓日共同協力戦略

4. 航空産業クラスターの構築

□ 韓中日航空関連企業のコラボレーションを通じた航空産業クラスターの構築

- ・ 務安韓中国際産業団地に航空特化産業育成
 - － 韓国の労働力と日本の技術、中国の資本を結合して航空分野世界市場に進出
 - ・ 航空機部品とエンジン設計等、航空関連市場進出
 - ・ 韓～中～日クラスター生産基地を通じて東北アジア3国のパートナー・協力体系構築
 - － 日本の強い分野である精密素材産業、基礎素材事業、電子部品産業、機械部品産業等ハイテク先端産業技術力を土台に、務安企業都市を航空分野部品生産及び関連基地として育成
 - － 航空関連日本企業のM&Aを推進し、生産基地の務安移転を通して韓中日連携網を構築
 - ・ 中国資本を活用して日本企業のM&Aを推進することによって、個人航空機と航空運送分野の需要が増大する中国市場に対応
 - ・ 航空分野生産基地の務安移転を通して航空クラスターづくり

12

Ⅲ. 結論

- 友好、協力、WIN-WINは両国交流の基礎

- ― 持続可能な発展を模索することが両国の必然的選択
- ― 連携・協力による新たな発展の契機用意

- 政府間・地方自治体間・民間次元の常時協力体系構築の必要

- ― 世界的な海洋観光・休養地帯化のために韓日間連携・協力体系構築
- ▲ 経済、物流、海洋観光・休養分野で協力産業及び交流拡大

ありがとうございます

19